

から、築造はいたって容易であつたと思わ

古史時代上
145P

□は④ 2930° ⑤ 2930°4分
 ↑ 古墳跡(2) 又行を太い
 ↓ 145° ゴ4ウツに12下

又行を太い
ゴシックにして下さい

2929
1851

2941-3

④ 2930⁷
45712
合小せ3

節古墳 四堅穴

② 豎穴式石室

及 𠂇 豎穴式石字

仁施之小友裴

堅穴式石室は本来個人墓として造るか小た

ものだらう、と言われ、
三、
ナ

あゝいば、もとと堅穴式石室は、朝臣

や特に許さ小た豪族の墓として造ら小たのか

知水乃

犬

とろろかやかて
福岡県川大古墳
や大分県

鬼塚 (菅原) のように、石室中央板石を立

て
て
障壁となし
石室を二分するものか
あら

たてあな
せきしつ

から壁面に至る

[illegible]

22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

石
か
の
う
人
作
三
三
〇

たてあな
せきしつ

たてあな
せきいつ
みこ

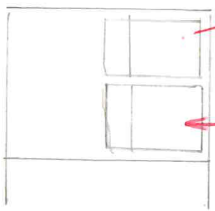
あな
せま
しつ
せう
ちやう
よう
く
ふ
二
ふん
た
すう
つ

力云石經卷之六

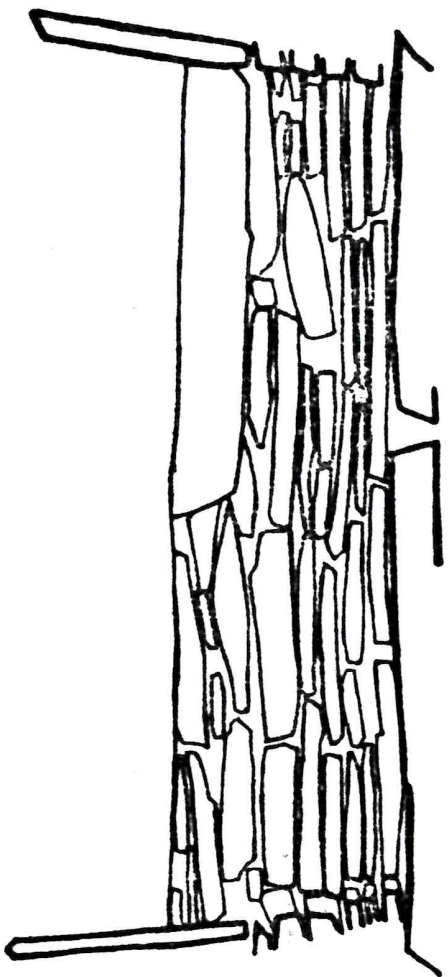
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

ま
けす
い
どの
たてあな
ほ
たてあな

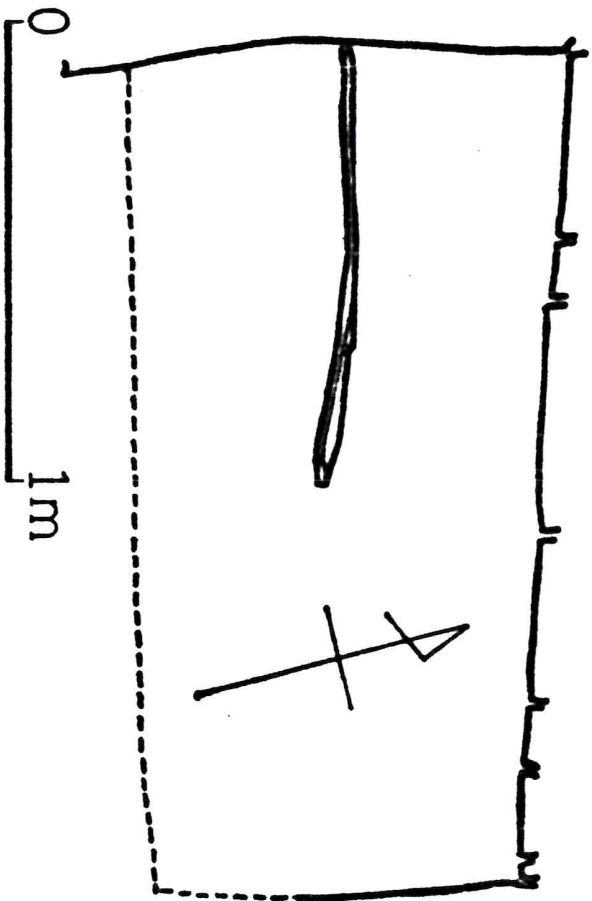
[illegible][illegible]



頁の上、1/4
左に掲載。
沢原の田



2,934^p 2/2



300

1309

1409

第377回

福岡県川大古墳

(壱穴式石室)

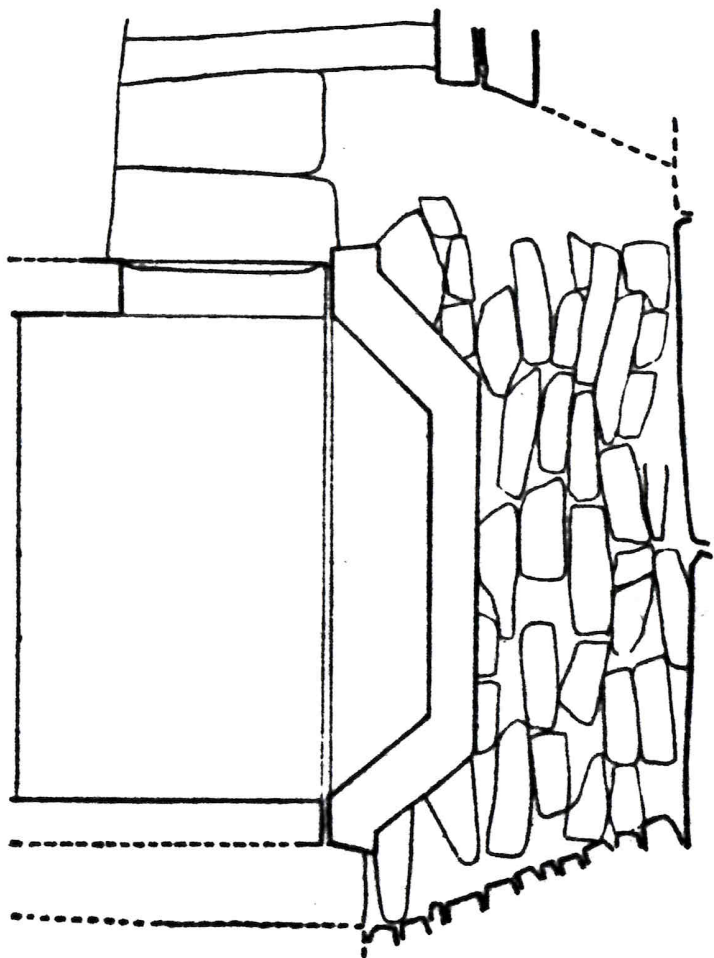
日本の考古学IV 『古墳時代』(上) 近藤義郎、河出書房、昭和42年9月10日。

(342) 発行 144頁参照

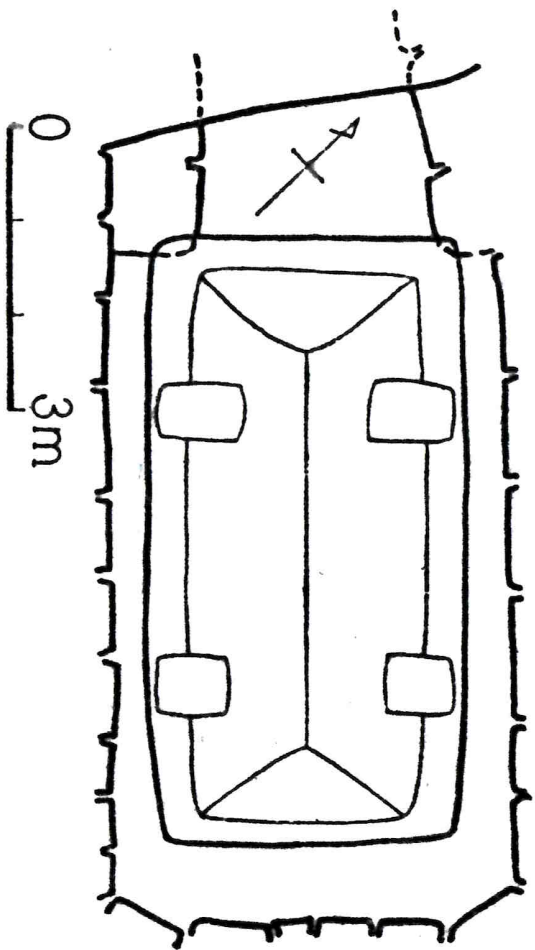
は、障壁の石室を2分して17113。

・原の上、1/4
左に掲載。

2,935^p - 1/2



301



1406

1309

第378図

福岡県久留米市上津町浦山古墳（竪穴式石室）

日本の古墳Ⅳ 古墳時代Ⅲ(上) 近藤義郎・河出書房 昭和42年9月10日(34版)発行
146頁参照

石人 2926

せきじん 2952-4/4に含めず
石人山古墳 274

2,935 2952 古墳時代 145° 148° (石人) 153° (石飾)

岩戸古墳と石人山古墳とは別。
日本古墳100選 目次 41° 150°

れる。また、竪穴式石室内も複数に仕切られ
ていて、機能的には、横穴式石室
とほとんど変らないものになった。
「古墳時代」(上) 近藤義郎、河出書房、一四四
五頁参照。
横穴式石室も、竪穴式石室も、複
数に仕切られ、家督相続の爲の儀式の場と
されたのであろう。と推察される。

福岡県石人山古墳や、同県蒲山古墳などで
は、後円部の山頂ちかくに妻入横口式の家形
石棺をすえおき、こゝを囲んで石棺の鞘堂の
ようち割石積みの石室をもうけ、前方部に開
口する短い羨道を付設している。第378図参照。
石人山古墳(前方後円墳)は、直弧文・同
心円文が彫り入れ、彩色(赤)されていて
形象埴輪や武裝石人などを伴う。
蒲山古墳(前方後円墳)は、直弧文・鍵手
文・同心円文が線刻され、彩色が施されて
いる。「古墳時代」(上) 近藤義郎、河出書房

2939 赤い

赤い

火の口 66°
新・熊本の史(2) 109°

堅穴内部が分割されていない。
2.936° - 1/5

火の口 55°
熊本の史 24°

装飾古墳の式 275°

一二〇頁

一四五頁、一四八頁、一五三頁参照

参考までに述べると、熊本県江田船山古

墳六世紀初頭の前方後円墳、装飾は無いが

武装石人像がその付近から見出し出ている

では、石室を設けず、家形石棺を後円部の

頂上に直納し、前方部へ向って開口する横口

の前面左右に板石を積み上げて羨道と一てい

る。(「古墳時代」上) 近藤義郎、河出書房、

一四五頁参照) 図版 506 江田船山古墳の

横口式石棺

また、「装飾古墳ではないか」きわめて特

異な古墳がある

装飾古墳の石室がきわめて長大な

宇土半島基部の八代海寄りのところに築か

れた白野田の前方後円墳は、全長約九〇m、

後円部(腹部)の直径五五m、高さ九m、前

方部(頭部)の幅三五m、高さ三m、おそらく

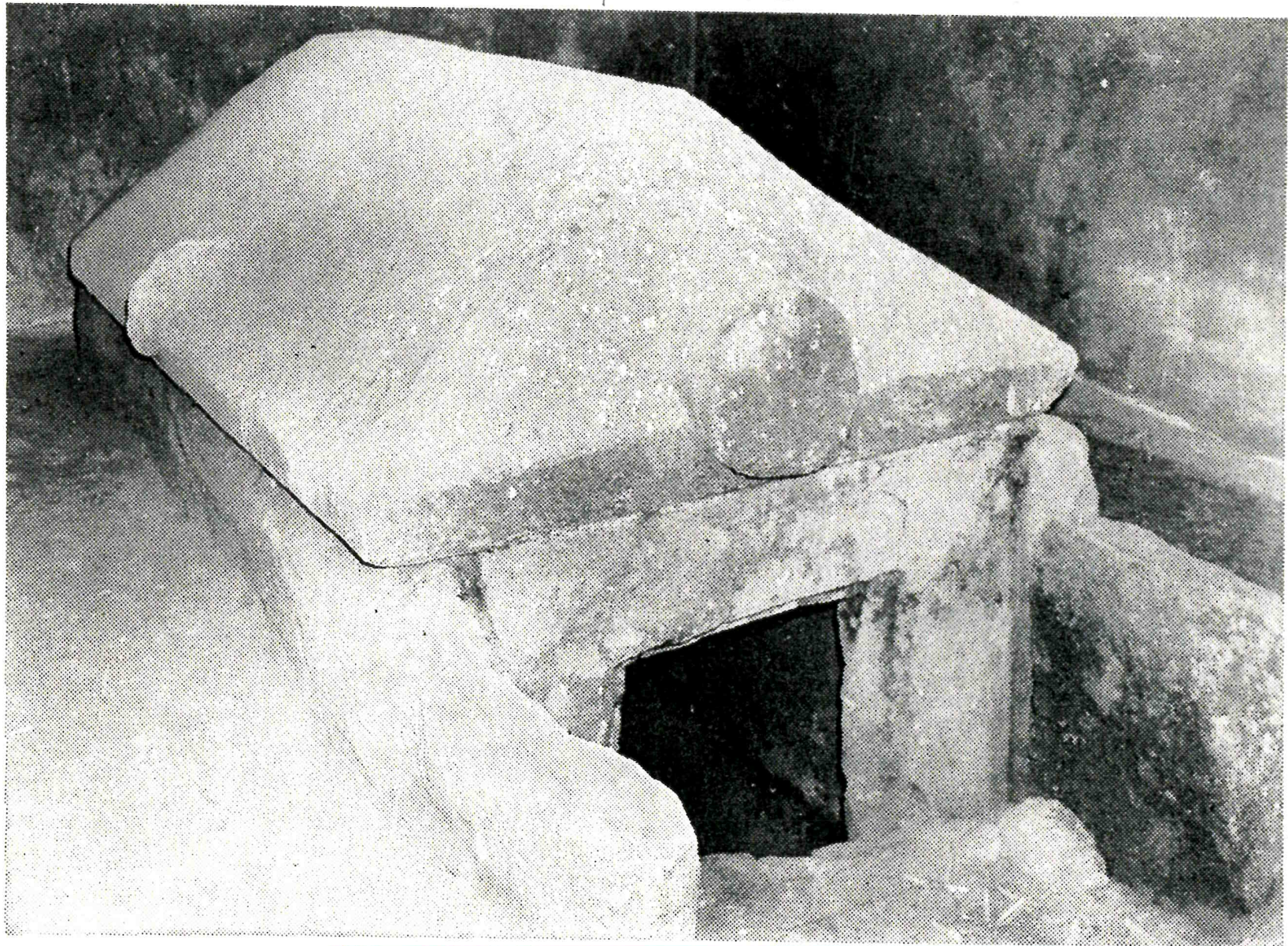
四世紀後半ないし五世紀初頭に造られ

る

古墳時代
124°
15°
市町村
42°
166°-7/3
1811°-6/6

2.936^p-2/5

・左頁上半分に
大きく
掲載下付。



中心ふりわけ
1409

2913
-294 3/4
江田船山
古墳 (金入)
大石 700 坪

写真図版 506 江田船山古墳の横口式石棺 (明治6年に発掘された横口式家形石棺)

たてあな
竪穴系

中心ふりわけ

1209

1304

・入口左右に板石を立てている

葬道の原初的発想がみられる

『発掘が語る日本史』第6巻 坪井清足監修 新人物往来社 昭和61年10月10日発行 169頁参照 304^p

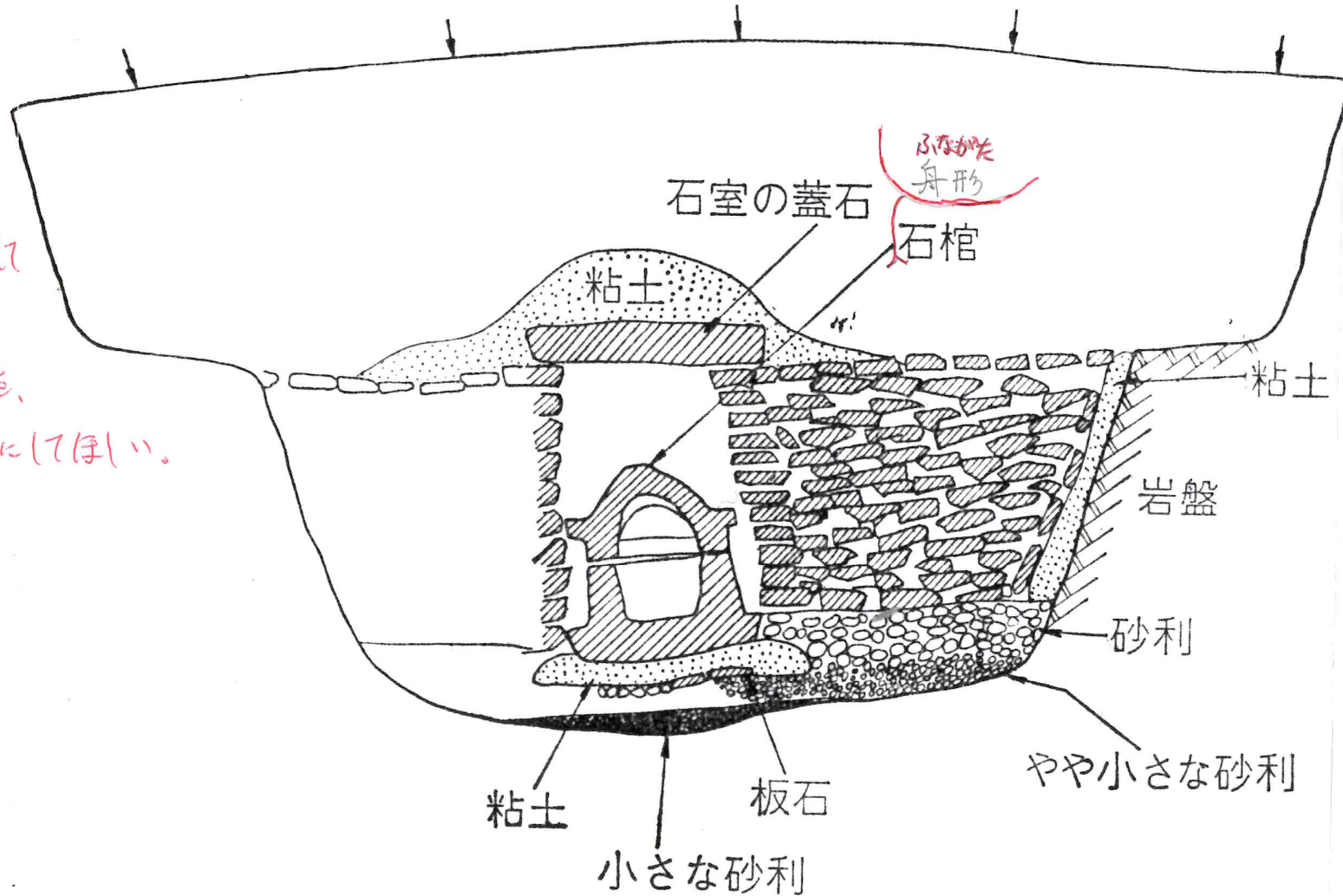
2,936¹-3/5

地表面

・右頁上半分に
大きく掲載
下さい。

・文字を太い
ゴシックに変え
下さい。

・矢印の線を、
明瞭な線にしてほしい。



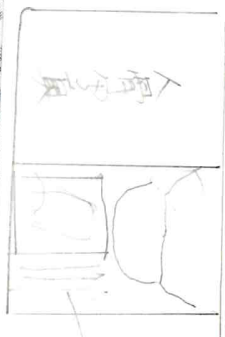
1429

第379図 向野田古墳の断面図

1306

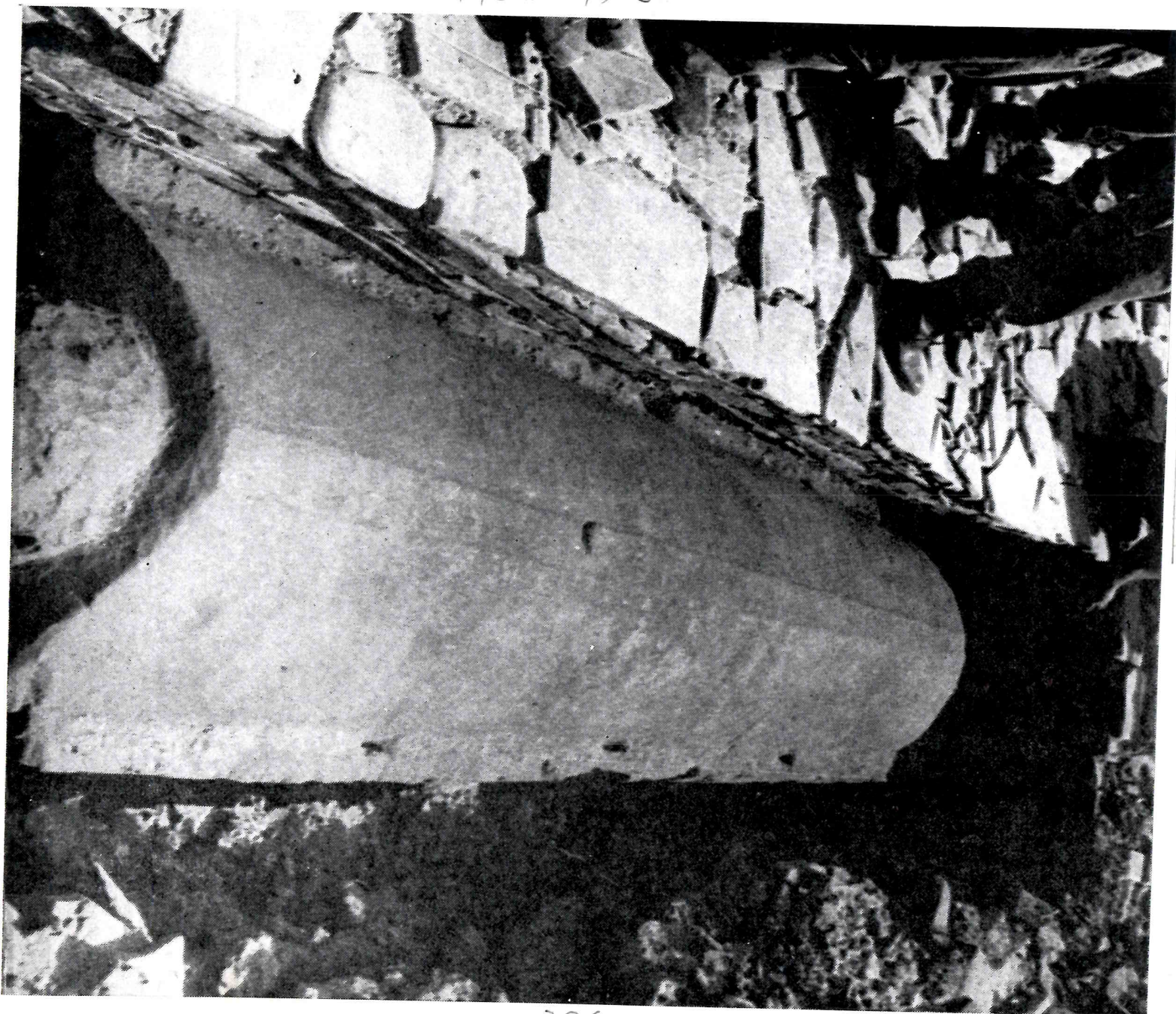
『火の国』井上辰雄 学生社 昭和45年10月10日発行 67頁参照

・右肩下半分
左寄り、小さく
掲載下さい。



文庫

2,936^p 4/5



306

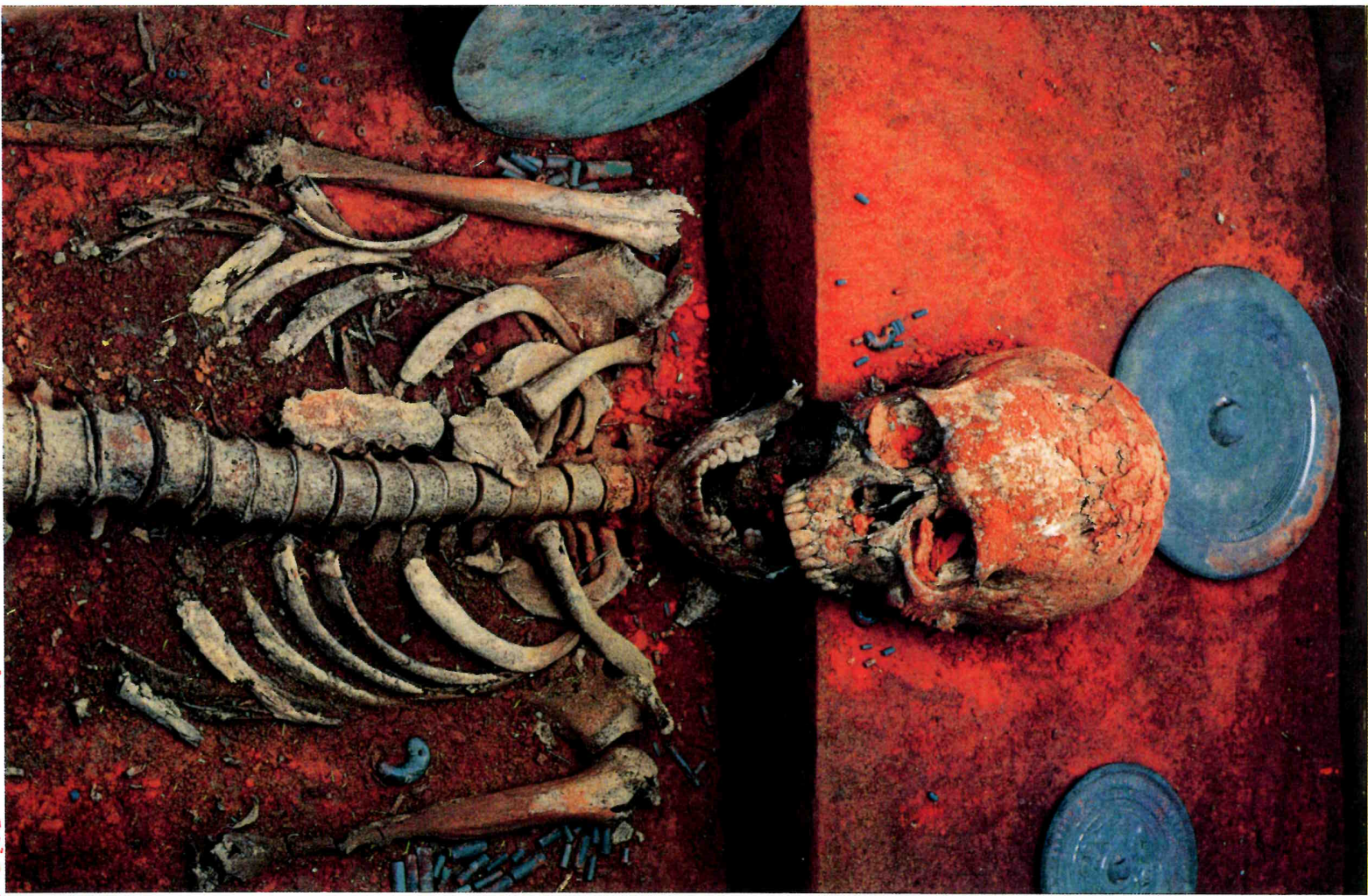
1404

1304 史実図版 507 向野田古墳出土の石棺 (熊本毎日新聞社提供)

『火の国』井上素雄 (おのゝくに) 学生社 昭和45年10月10日発行、カバー参照

カラ一
左頁全面に、
大々掲載
下二。

2,936^P-5/5



307

日向野田古墳石棺内人骨検出状況

宇土市松山町向野田

1409

写真図版 508 向野田古墳石棺内人骨検出状況

昭和41.8.18

1309

『新宇土市史』第一巻、宇土市、平成15年3月31日発行、口絵参照。―― 418頁

1209

・頭を少しかたむけ、どこか悲しげな表情に見える。

ていちょう 15/17
2.937P

た古墳であらう、といわれてゐる。

・後円部に割石積み、の長方形の石室があり、

この石室の中に、約四畳もある熊本県最大の

舟形石棺がすっぽりとおさまられていた。

重さ二トモあろうかと推定された石棺の

蓋が、チエーニブロックでもちあげられた。

石棺内には、目もあざやかな真赤な朱が

塗られていて、ほとんど完全な人骨が、

石枕に横たわって発見された。

被葬者は、推定年齢二十才ごろの女性であ

らう。但し、死亡年齢は三〇と四〇代の骨盤に妊娠のあとがある

ので、配偶者や子供もいたのかもしれない。このころの織物は、

子・紗の薄物・錦・荒織の麻の四種が判別

され、勾玉などの副葬品を盛装して

鄭重に埋葬されたこと、かうかがえる。

また、頭部近くに二面の鏡が、右肩の

ところ、一面の鏡が、計三面の白銅鏡（後漢鏡）

が副葬されていた。

という。

・そのほかの副葬品で注目されるものには、

碧玉製の車輪石がある。

刀剣類はいずれも棺外に安置されていて、

国史古墳 2933' 39~

向野田古墳は装飾古墳である!!

太いゴキッ

こと

2,938P

ひま 1845P
先立 823P

かん71040' かん72321'
斧 吳漢 鉄 吳漢
ふ テッ

次頁から

長剣二本、短剣類六本、刀子約百本があった。
それに鉄斧が三本あり、鉄製品がこれだけ多
くまとまると副葬されるのは、きわめてめず
らしいといわれている。(火の国に井上辰
雄、学生社、六三と七の頁参照)
なお、竪穴式石室内の石棺の内側が真赤な
朱で塗られたこの向野田古墳は、あるいは
皇后、妃、内親王、重臣の娘のような高貴な
女性の爲に造られた墓だったのかも知れない。
また、石棺内にもうら若くして、人々に惜し
まれながら先立ったこの女性は一不知
火海の近くに築かれた母の胎内で永遠の眠り
についたのであらう。
前方後円墳
とこころがふいに、乱暴にも安眠を妨げられ
と栗いられる。国史古墳で向野田古墳
※そのその下多くの装飾古墳は、
よう大豪華な副葬品が多数埋納されていた
のと思われる。

2,939^P 1/3

内すか外すか
分らない
能本の墓飾古墳164^P

能本の墓飾古墳164^P ②2952^P ③703^P ④703^P ⑤703^P
能本の墓飾古墳 王利和99^P 巨大142^P 分本②
改訂横穴式内墳「古墳時代」125^P

前頁



宇土半島基部



南側の丘陵上に築かれた

鵜

籠古墳(円墳)の竪穴式石室内にあった巨大

な家形石棺はいま熊本県立美術館に移されて

いる。その屋根形の蓋の全面には、直弧文の

ほか、同心円文、梯子形文、帯状文などが線刻

されてあり、また色鮮やかに塗られていた赤

や青の色の名残りを現在もたどることが出来る

る。写真図版(509・510参照)

石棺の石質は、蓋・身とも凝灰岩で、その

長さ一・六四m、幅〇・七m、高さ〇・九三

mであり、重量は約一トあるといわれる。

棺身は残く作られ、一側に石枕が彫り出さ

れている。

この家形石棺は五世紀後半をさかのぼるも

のではあるまい、と見る森貞次郎氏は、

「赤のほかには青あるいは緑を使用するのは

直弧文の浮き彫り手法が線刻手法に変わってか

ら後にあらわれてくる現象である。この点が

(より簡略化した)

- ・カラー
- ・頁の上半分に、大きく載せて下さい。

- ・^{ふた}蓋のモヨウが
見えるように
おいて下さい。



- ・著作権許諾は、
上だけで結構
です。

中心のりわけ
1409

1209 ^{上げ}カッめ

^{うと}熊本県宇土郡不知火町 ^{らぬひ}鴨籠坊の平(円墳)

^{かも}509

史実図版 鴨籠古墳家形石棺の外観 (棺身および蓋)

1309

^{だまり}『装飾古墳』 ^{いざお}玉利勲

平凡社 1978年12月8日発行 131頁

左の表紙に写真あり

『装飾古墳白書』熊本県下における保存の現状 装飾古墳を守る会 昭和53年(1978)10月10日発行 121頁参照

直弧文や同心円文などを刻み、赤と青の二色で塗りわけている

311

2,939^p-3/3

頁の下半分に
大きく
載せて下さい。



中心よりわけ
1309

中心よりわけ
1409

写真図版 510 鴨籠古墳家形石棺屋根の円文と直弧文
えんもん ちようこもん かん
うと くらぬみ
宇土郡不知火町

『熊本の装飾古墳』(1) まつもとまよあき 松本雅明 熊本日日新聞社 165頁参照

←千持ちの本

44.8.1(土) ⑤
→ 大都会化 休日出勤

2,940⁹

⑤ 2932¹/4 5所
国越古墳は
5世紀末の 前古墳時代
⑤ 2932¹/4 5所
新・熊本の歴史 99'

ら、本格的な彩色手法のはじまりとして注目
される。と指摘している。
・尚、この古墳の文様に類似する文様を施し
た同じく宇土半島基部の国越古墳(先述の横
穴式石室をもつ「真図版504」)と対比すると、家
形石棺の構造、直弧文の構成などからみて、
国越古墳(横穴式石室)より年代的に古いと
思われる。五世紀末の
・遺物には、刀子・鉄刀破片・鉄鏃片などが
ある。(「装飾古墳」玉利勲、平凡社、九九
頁。「熊本の装飾古墳」松本雅明、熊本日日
新聞社、一六四頁参照)

⑤ 2933¹ 16所

内部はかりでなく

内部

川ぬき
石壁/横穴古墳
笠本・笠飾古墳 32, 36~39

古墳時代上 153, 156
笠本集の「史」 38P
294/P-1/3

日本史年 1005
「古墳時代」河出書房
153P
2934-1/2 P
2929P
18P
2929P
17下上

③ 装飾横穴墓

古墳時代後期になると、自然の断崖に直接

横穴を掘って墓としたものがでてくる。横穴を掘り

断崖を女人の腹部に見たて、横穴を掘り

これを墓にしたのは思われる。横穴を掘り

子だくさんの女が、幾度となく孕むように

多数の横穴が次々と掘られていったの

だろう。一つの断崖が、蜂の巣状になっ

ていた場合も多い。横穴の入口のまわりや内部に彫刻し

また、横穴の入口のまわりや内部に彫刻し

彩色するものが現れた。肥後菊池川や球磨

川流域や周防灘沿岸では内部に施文されている

。なお、横穴系装飾古墳は、とくに肥後地方

で発達し、六世紀後半から七世紀代に群集し

てあらわれる。一ニ〇穴におよぶ笠本集長岩

横穴群や石貫ナギノなどでは、石障系の完成

した室内四区分の伝説がうけつがわて盛行し

装飾は八口の周囲にうき彫りされた彩色も

併用されている。幾何学文（円文・三角文）

12.50M
崖墓への回帰な
高塚式古墳を築く手間を省く為だろうか

2,941^p - 2/3

・カラー

・右頁上半分に
左右を大きく
はみ出させ
掲載下さい。



る横穴もみらる

著作権許諾は
上のふだけで
結構です。

13QG

14QG 中心ふりわけ

写真図版 511

せとやちおうけつぽぐん
瀬戸口横穴墓群

熊本県菊池郡七城町大字瀬戸口

平成10年度前期企画展「今どきの考古学」熊本県立装飾古墳館、1998年4月27日発行、44頁。

『くまもとのあゆみ』菊池川編、熊本県教育委員会、平成15年1月30日発行、16頁参照。

- 1.3 kmの間に、249基以上の横穴がある。複室構造になっている。中の玄室全面に赤色顔料の跡がある横穴もみられる。亀甲（^{きっこう}亀のこうら）・鉄片・勾玉などが出土。横穴墓の半分程まで破壊されている状況が分かる。
- おおよそ、6世紀内に収まるようである。

・ カラー

・ 左頁、上に大きくはみ出さず
掲載下さい。



140G

写真四版 51-2 ^{やまが なりた} 山鹿市鍋田横穴群 (27号) 入口に見られる装飾

130G

『熊本』日本の山河⑤ ^{ならおとたのや} 奈良本辰也監修 国書刊行会 昭和51年12月20日発行 52頁 他参照

120G

・ 右側 ^下 横穴墓の入口が見える。

2.942P

2944P

282.1.16⑤

八〇し八五頁

(*)

2940P
165P

能本の装飾古墳 松本雅明 能本目録新聞社 三二三四頁

器財（櫛・靱・刀など）・人物・動物等が描かれており、画材は壁画系の文様と共通している。（古墳時代）河出書房、一五三、一五六頁（参照）
つまり、装飾横穴墓は、横穴式装飾古墳の延長上にあると推察される。
■では、装飾が施された横穴墓にもまた、貴人の血を引く者達が葬られたのであろうか。
・そうとも思えるが、しかしそうでないようにも思える。詳しくは分らない。

2942P
載

■なお、六世紀中葉をすぎるところになると、
 九州各地に群集古墳（群小古墳）が激増する。
 ・しかし、これらの群小古墳には、個々には
 構造上の若干の相違があるものの、横穴式石
 室の採用が普及する。
 ・しかし、貴重品というべき副葬品を有する
 ものはほとんどなく、玉などの装身具、刀・
 鏃などの武器、馬具、須臾器、土師器などが
 普遍的で、質的には低いようだが、
 ・本来、横穴式石室は、構造的に埋葬にふさ
 しい家族墓としての性格をもっており、そ
 れがこの時期の中流以下の階層にも歓迎され
 普及したのであらう。へ「古墳時代」の河
 出書房、一六三―一六五頁参照）
 ・後代の武家達か、公家達の慣習を多く取り
 入れたのと全く同様、この当時の

H30(2018)7,29(日)~〇〇(4回) 高松城 壁画古墳 奈良県明日香村「飛鳥」に折り込みのH12.5,22付朝日新聞
 令和2(2020)3,13(金)~3,14(4回) 高松城 壁画古墳 奈良県明日香村「飛鳥」に折り込みのH12.5,22付朝日新聞
 令和2(2020)11,20(金)~11,22(4回) キトラ古墳 奈良県明日香村「飛鳥」に折り込みのH12.5,22付朝日新聞

1/22 下 1/21

平

中・下級の朝臣達は、より高い階級にある者達の様式を取り入れたかったのであろうか。想像される。恐らく、こうした群集古墳の中の副葬品について、厳しい検閲が行なわれ、文字の有無が調べられたことであろう。と考える。左。

また、七世紀末、八世紀初めになると、仏教が東伝すると、寺院の壁画の影響を受け、つくりを添え、その上に描く新しい手法が近畿地方におこる。高松城のようなもので、これは壁画古墳と言つて区別される。ハ「能本の装飾古墳」松本雅明、熊本日新新聞社、二七頁参照。

米

百科事典 13-535 仏教寺院

九州全地

$\frac{113}{162} \times 100 = 69.75\%$

$\frac{54}{113} \times 100 = 47.78\%$

$\frac{54}{113} \times 100 = 47.78\%$

$\frac{54}{113} \times 100 = 47.78\%$

$\frac{54}{113} \times 100 = 47.78\%$

②946 装飾古墳の分布
②966 装飾古墳の分布

装飾古墳の分布

装飾古墳の分布状況に關して

現在で全国で、一六二例の装飾

古墳が知られており、

その内訳は、肥後五四、筑後三三、筑前一

〇、その他の九州一六、本州四九で、全国中

九州地方だけで七〇パーセント弱。その九州

のうち、熊本県だけで四七パーセント強を占

め、といえる。熊本県の歴史に森田誠一、山

川出版社、三四頁参照。第四十三章へ装飾古

墳の項において既述

装飾古墳についての解説

に、あいまいな点があるのだろうか。次のよ

うにも述べられている。

日本の装飾古墳は現在二百五十数基発見

され、そのうち百十八基、すなわち

半数近くが熊本県内にあることは、その発生

発展、さらに土着性を考える上において、

注目される。

$\frac{300}{180,000} = \frac{1}{600}$ ④2662^p ほぼ同文
 玉利勉17頁に貼布の朝日新聞は2,945^p - 2/3
 ④2949^p - 1/2 ④2950^p - 1/2 玉利17^p
 ④2948^p - 1/2

といふ。 (「熊本の装飾古墳」
 昭和五年三月発行)

松本雅明、熊本日新聞社、二七頁参照)

ともあれ、装飾古墳は熊本・福岡地方に特に多

いようである。(第380回へ各種装飾古墳分布図参照)

④そして、中でも装飾古墳の白眉といわれる

日彩色壁画は、熊本・福岡の両県と、隣接

する大分、佐賀の一部のほかは、遠く離れた

茨城、福島、宮城の主として太平洋岸に限ら

れ、さらにポツンと離れた鳥取の一例が知ら

れてゐるにすぎない。(「装飾古墳」玉利勉

東北・北関東

平凡社、十七頁、一四四頁の「九州装飾古墳

分布図」。「装飾古墳の秘密」日下八光、講

談社、二五九頁(頁参照)

④それにしても、日本全土で確認されてゐる

古墳の数は約十五万。それに、二、三万基は

あると推定される横穴墓を加えるならば、

「(三百基にも満たない)装飾古墳は、古

墳時代の墳墓の中で、極めて小さな存在であ

った。

と言えよう。(「装飾古墳」玉利勉、平凡社

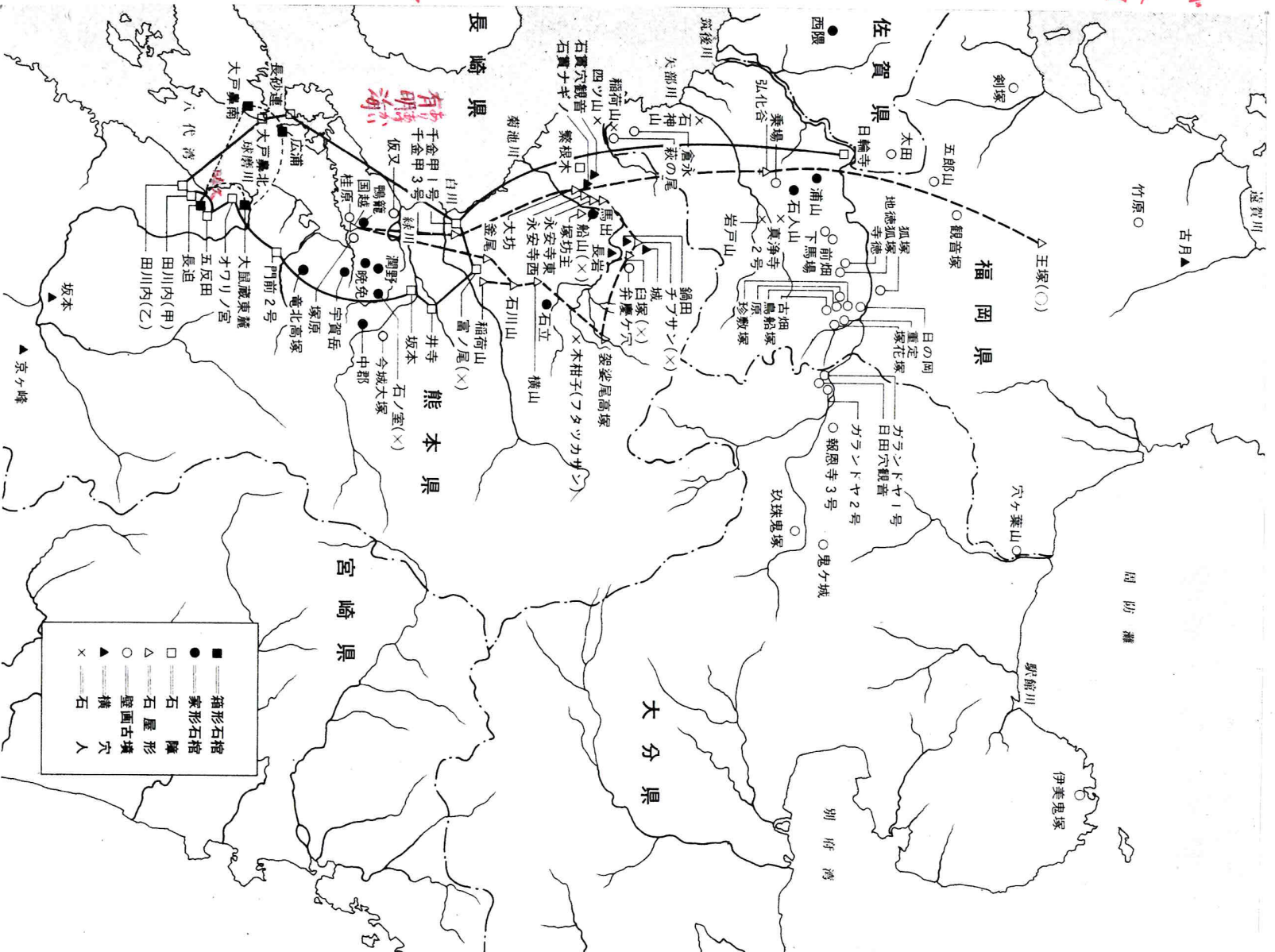
・右頁の全面。
 上下左右を限度一杯はみださせて
 大きく掲載下さい。(文字が良く見えますようにお願いします)

・(○)、(×)が
 薄いのでも太
 線にしておいて
 下さい。
 ・全て34。

2.945 P-3/3

有明海
 と記入下さい

日奈久
 と追加して下さい



第380図 各種装飾古墳分布図

『装飾古墳の秘密』日下八光、講談社、昭和53年3月28日発行、259頁参照。
 ・装飾古墳は、熊本・福岡県に、きわだっている。

一七頁参照。第四十三章「裝飾古墳」の項に
おいて既述）

*

熊本県下、装飾古墳は、内部施設のいかんに係
る。その装飾は、直弧又、円文、三角文とい
う。また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

地方において誕生

地方

発生したのだろうか。

熊本県下の古墳は、内部施設のいかんに係
る。

また、装飾古墳は、直弧又、円文、三角文とい
う。

また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

また、横穴式石室の石壁に、いわは簡易的
に直接壁画を描いたものは、熊本県内では非
常に少なく、僅か三、四基見出しされてい
る。

④ 2663¹-1/3 同文

④ 2945¹-2/2

④ 2945¹-2/2

に筑後川流域とその周辺に密集しているのと対照的である。

こうして、^{いふ}情^{けい}況^{きやう}をつきつめていくと、^{そう}装飾古墳^{さうしきこふん}

墳はまず熊本県に発生し、^{はつせい}やがて有明海の東岸に沿って北上し、福岡、佐賀両県へ波及し

たのではないかと思われるし

という。〔装飾古墳の秘密〕日下八光、講

談社、二六五―二六七頁、二八四頁参照。第

四十三章「装飾古墳」の項において既述

※

なお、^{そう}装飾古墳^{さうしきこふん}が王族^{おうぞく}あるいは

重臣^{じゆうしん}達の墓^{はか}であつたとするならば、

普通に考える時、都周辺のほぼ一定の範囲

内に集中的に築かれていて、かかるべきことの

ようにも思われる。

ところが、^{そう}装飾古墳^{さうしきこふん}は、北九州

の各地^{ちがち}と、^{えん}遠隔^{えんかく}に点々と散在しているばかりでなく、

茨城・福島・宮城・鳥取・東北地方など遠隔

の地にも築かれており、相互の関連性を把握

する^{しる}ことはむづかしい。

H30(2018)7,30(月)~8,〇(4回)
 H31(2019)2,20(月)~2,21(3回)
 令和元(2019)7,28(日)~7,30(3回)

⑦ 2944

2,947-²/₂

孝仁天皇 淡路天皇 皇室大御所 235⁺
 在位 758~764 孝仁天皇 淡路天皇 240⁺ 在位 918⁺

下 7/30
 7/29

何とも不思議な分布状態である。
 しかしいくよく思い巡らせてみると、
 奈良朝以降の天皇陵が、畿内の各地に点
 々と散在しているばかりでなく、
 香川県坂出市の崇徳天皇陵や、山口県下関市
 の安徳天皇陵のように、畿内から遠く離れて
 築かれていいる例もある。
 という同様の傾向が見られる。
 更に、中臣氏が鹿島・香取を中心とする一
 帯で大きな勢力を誇っていたことは、述べ
 までもなくよく知られている。
 装飾古墳が、北九州各地に点在しているた
 けでなく、茨城・福島・宮城の主として太
 平洋岸にも築かれたものにはついては、
 それなりの隠れた理由があるのであろう。(次
 項参照)

*

茨城県の千葉県の

2948^{P-1/6}
 2949^{1/2} [II]
 2950^{2/2} [III]

文様 = 模様
 2209⁰

1244^{1/3} 23

装飾古墳の模様

装飾古墳に描かれていた模様には、同心円
 文・三角文・直弧文・蕨手文・具象形などが
 ある。

では、これらの模様は、一体何を示してい
 るのだろうか。そして、その文様の起源はど
 こにあるのだろうか。

ここに、簡単にふれておくことにしよう。

(以下、「装飾古墳の秘密」日下ハ光、講談

社、一六二一六頁参照)

(I) 同心円文

同心円文は、太陽でなく、口鏡を表

現しているであろうと考えられる。

もしも太陽ならば、武具などの具象形と具

象形の隙間に描いたりするはかはない、な

により、五個も十個も並べて描くわけがない。

はしなかつたであろう。

いかも

紀324 紀(四)51 125
紀(五)112 105 2, 948-3/6

紀本の装飾古墳 紀本和明 山下ハ光 157P
(外さい本) 187P 紀本和明
DF 35~36, 50P
⑦704P-3/4の図に無い。 八代市 和明 40P

コネ、72
満員

特等

とやわけ

2950
1/2
45

へ鏡を吊りつけている様子を具体的に示す古墳
があり、特に不知火海沿岸に多い。 母真図表 52, 515 参照

ということは、大いに注目される。

① 日奈具町の長迫古墳

② 八代市鼠蔵町の大鼠蔵東麓古墳

③ 天草郡の大戸鼻南古墳 (日奈具の対岸)

④ 八代平野の竜北高塚古墳

なとに、鏡を吊りつけた使用状況が描かれている

(「装飾古墳の秘密」三五頁、五〇頁参照)

三四
一五七―一六〇頁

一方、

① 記・紀の口天石窓七条に、

「ハズ鏡を、真坂樹にとりかけたし

と記されてあり、

② 仲哀紀八年正月四日条に、

「岡縣主の祖熊鯨が、白銅鏡を賢木の上枝

にとりかけたし

と記されている。

往古には、鏡を吊りさげて用いる場合も

多かったであろう。

・カラー
・右頁上半分、左右に限定一杯はみ出させて掲載下さい。

2,948P 3/6



130G

140G

写真図版 5/2 熊本県八代市日奈具町長迫古墳の石棺材 (主要部)

『装飾古墳が語るもの』国立歴史民俗博物館 平成7年7月10日発行 5頁参照
紐で吊り下げたような同心円文が、ほぼ等間隔に配されている。

328P

・カラー

・右頁下半分に大きく掲載下さい。

329^p

2,948^p - 4/6



140G 写真図版 513 長迫古墳の同心円文鏡大

130G 装飾古墳が語るもの 山国立歴史民俗博物館、平成7年7月10日発行、5頁参照
・紐で吊り下げたような同心円文は、よく見ると、内側に小円が、外側に金屈曲文が
あり、銅鏡の背面の文様を表現してあることが分かる」という

・カラ
・左頁上半分
左右に限定
一杯はみだし
せて下さい

2,948^P-5/6

②2961^P-1/3
18頁
三
で
す。



13QQ 中じふりわけ 14QQ 写真図版 5/4 熊本県八代市鼠蔵町の^{やっろ}大^{そぞう}鼠蔵^{おおそぞう}東麓1号墳の石棺石椁

『残されたキャンパス』大阪府立近^{せう}飛鳥博物館、2000年4月18日発行、48頁参照。
12QQ 石棺内壁に、^{せんこく}武具などが線刻されている。【*5世紀後半以前】

②2961^P-1/3 17頁と合わせること 330^P ②2961^P-1/3 17頁、未行

②2961^P-1/2 20頁

・カラー
・左頁下半分に大きく掲載下さい。

2,948^P 6/6



331^P

1409 写真出版 515 天草郡の大戸鼻南古墳 (天草上島の東北部)

1309 装飾古墳 玉利勲 平社 1978年12月8日発行 67頁参照
1309 紐で下げた鏡のような同心円文の浮き彫りである 石室右壁
・中央小円の右上部から欠けてしまったところから